



たきいNOW



 関西医科大学附属滝井病院

たきいNOWとは？

たきいNOWは、地域の皆様に滝井病院の「いま」をお伝えし、当院が提供する医療へのご理解を深めていただくことを主旨として発行しております。

コンテンツ

- ☆ 循環器腎内分泌代謝内科 ～診療内容について～
- ☆ 女性泌尿器外来について
- ☆ 白内障手術の入院待ちについて
- ☆ 【検査部の活動】“笑うに笑えない話”



循環器腎内分泌代謝内科 ～診療内容について～



診療部長・教授 西川 光重

当科は、その長い名前が示すごとく、循環器、腎臓、内分泌代謝という非常に広い範囲の病気を担当しています。循環器では、心臓を栄養している血管が詰まって急死してしまう危険のある急性心筋梗塞症や、徐々に心臓が弱ってくる慢性心不全などを扱います。腎臓病は、血尿や蛋白尿で発見される腎炎から、慢性腎不全に対する血液・腹膜透析までの診療を実施します。内分泌代謝では、メタボリック症候群の代表選手である糖尿病や女性に非常に多い甲状腺の病気などを診療しています。

これらは互いに密接に関連しています。例えば、心臓病があると腎臓が悪くなりますし、腎臓が悪くなると心機能が落ちます。また、糖尿病は一般的には血糖が上がる病気ととらえられていますが、実際は全身の血管が障害されて種々の合併症をおこすことこそが怖い「血管の病気」です。さらに、甲状腺や副腎皮質ホルモンが過剰になると高血圧、糖尿病がおこり、心臓、血管、腎臓などが障害されます。当科では、各部門それぞれの専門医が密接に連絡を取り合って、これら複合分野にまたがる患者さんを診療しています。また、健康科学センターでは心臓リハビリや肥満・糖尿病患者さんへの運動療法を行っています。

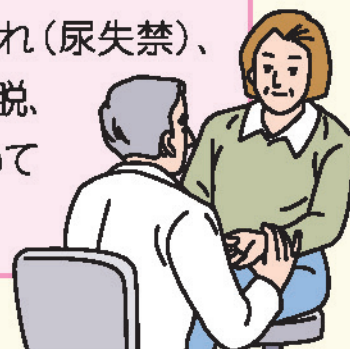
胸が急に痛くなれば狭心症や心筋梗塞の危険があります。当科ではCCU、胸痛センターを備えていつでも対応が可能ですので、通院患者さんはすぐ連絡して下さい。また、当科の病気では慢性に経過し、自覚症状の乏しいこともあります。検診で異常を指摘されても放置している人も少なくありません。正しく診断して正しく治療すれば危険な合併症を予防することが可能です。お気軽に受診して下さいをお勧めします。

女性泌尿器外来について



腎泌尿器外科・講師
大口 尚基

女性泌尿器外来とは、主に尿漏れ（尿失禁）、骨盤臓器脱（膀胱瘤、子宮脱、膣脱、直腸瘤）、過活動膀胱などについて診察する外来です。



【尿漏れ（尿失禁）、頻尿】

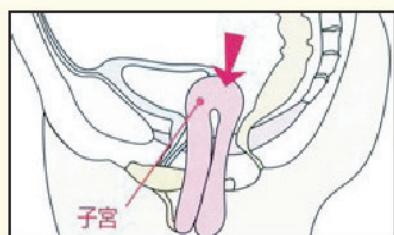
健康成人女性の4人に1人、40～59歳の女性では約半数の人が尿漏れ（尿失禁）に悩んでいます。尿失禁はなぜ起こるのか？多くは骨盤底を支える筋肉が加齢や出産、肥満などによりゆるむことにより起こります。

尿失禁のタイプとして腹圧性尿失禁：いわゆる咳やくしゃみ、運動をしたときに漏れるタイプ、切迫性尿失禁：尿意を感じたらトイレに行くまでに我慢できずに漏れてしまうタイプ。合併している混合タイプもあります。

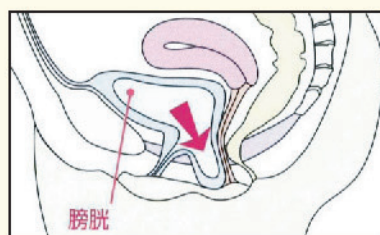
治療は骨盤底筋体操、手術などがあります。

手術は経腔的に人工のテープを尿道下にゆるく設置することにより尿失禁の防止が得られるとする手術で短時間（30分程度）で施行でき1～2日間の短期入院で可能です。

【骨盤臓器脱】



【子宮脱】



【膀胱瘤】

一般に骨盤内にある膀胱、子宮、膣、直腸などの臓器は筋肉や靭帯によって骨盤底に支えられています。骨盤臓器脱とは加齢や出産、骨盤内手術（子宮摘除）などにより支持組織がゆるむことによって骨盤臓器が下がり、前後腔壁が腔口より飛び出してきます

治療は基本的には手術です。メッシュを使用して経腔的に行います。子宮も摘除せずに温存することが可能です。

【過活動膀胱】

過活動膀胱とは尿意切迫感を主症状とし、多くは頻尿を伴う自覚症状症候群です。尿意切迫感とは急に起こる、抑えられないような強い尿意で、我慢することが難しい症状をいいます。治療は薬物療法、行動療法などです。

現在、尿がもれる、尿の回数が多い、我慢ができない、逆に尿が出にくい、下腹部に不快感があるなどお悩みの方、遠慮なく御相談ください。

女性泌尿器外来は毎週火曜日（予約外来）でおこなっております。

< 相談先 > 関西医科大学附属滝井病院・腎泌尿器外科受付 (06) 6993-9539 (直通)

< 担当医師 > 大口 尚基

白内障手術の入院待ちについて



眼科・講師
尾辻 剛

白内障は50歳頃から徐々に水晶体(生まれつきのレンズ)が濁ってくる目の変化です。体の老化の速さとは関係がなく、元気な人にもおこります。



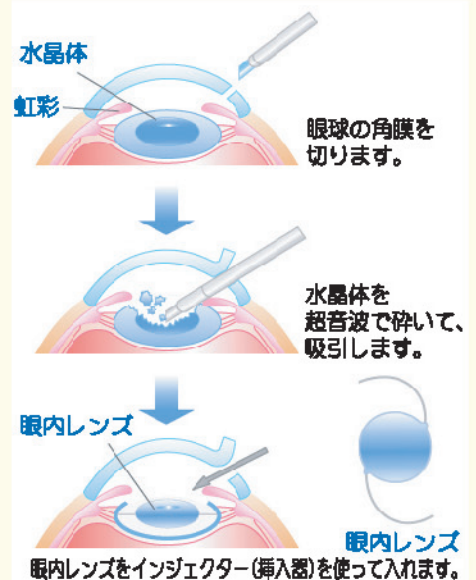
数年前までは「関西医大の眼科は白内障の手術待ちが1年以上あるらしい」といった噂が飛びかっていたようで、今も当科を受診される患者さまの中にこのような声をお聞きすることがあります。近年の手術器具や技術の進歩で入院期間が非常に短縮できるようになり、現在当科では白内障に限って手術前日に入院していただき手術翌日に退院していただいています。片眼手術は2泊3日で、両眼の場合は5泊6日の入院となります。これにより入院待ちが短縮されたとともに、あらかじめ退院日を設定することで次に入院される患者さまのベッドが確保でき、入院日の予約ができるようになりました。現在のところ4人室・6人室は3か月待ち、トイレシャワーなしの一般個室は1か月待ちとなっています。ただし2人室や特別室などは白内障用のベッドを確保しておりませんので、これらのお部屋をご希望の患者さまは、申し訳ありませんが入院日の予約ができませんのでベッドが空き次第ご連絡いたします。また緑内障や網膜疾患に関しましても、原則的に入院日の予約はできませんのでご了承ください。

白内障手術は比較的簡単に受けられるようになり、日帰りでの手術も行われるようになってきています。手術時間は短くなり、安全性も高まり、患者さまへの負担は軽くなっていますが、実際に行われる基本的な手技は革命的な変化があったわけではありません。したがって一定の確率で合併症は起こりますので、日帰り手術を行っても通院の必要があります。手術の翌日の診察をすっぽかしたために、見えなくなってしまうということがありうるということです。当科では日帰り手術には対応していませんが、他院で日帰り手術を受けられる方は十分気をつけて下さい。

当科の医師は全員、白内障手術のスペシャリストです。安心してご相談ください。

白内障の自覚症状は様々です。

- 全体にぼやけて見える
- 対向車のライトがまぶしすぎる
- 明るい昼より夕方が見やすい
- 手元が見やすくなって老眼がなくなる



白内障は、薬でも訓練でも治せません。手術を受けることで、よく見える目を取り戻せます。

<相談先> 関西医科大学附属滝井病院・眼科受付 (06) 6993-9549 (直通)

<記事担当> 尾辻 剛

【臨床検査部の活動】



検査部技師長

平城 均

『笑うに笑えない話』

ある日、腎臓内科に40歳後半と思われるご婦人が診察に来られました。

担当医に「どうされましたか?」と尋ねられ、ご婦人は「実は、先日健康診断を受けた結果、腎臓が非常に悪いと指摘され、紹介状を持って参りました。」と心配そうな顔で答え

ました。早速、担当医は紹介状の内容を確認し、血清クレアチニン・3.45mg/dL、eGFR・12ml/min/1.73m²のデータを見て、異常な数値にびっくりしてしまいました。問診や内診をしてもはっきりしません。担当医はご婦人に



「それでは、もう一度検査をしてみましょう。ところで、最近、薬かサプリメントを飲み始めませんでしたか?」と尋ねました。

臨床検査部では24年7月から“慢性腎臓病教育入院”に際して、チーム医療の一環として、【検査説明】を始めました。主治医の指導の基に、患者さんとは個別に、検査の内容とその意味を説明し、現在のご自身の状況を把握したうえで、今後の生活に役立てていただくことを趣旨としております。

さて、再検査の結果は基準値内に入っており、よくよく話を聞くと最近飲み始めたサプリメントの影響で血清クレアチニン値が上昇し、そのデータから得られる計算値eGFRは“透析を必要とする程”の低値になってしまったことが原因と分かりました。検査データだけが独り歩きしたために起こった“笑うに笑えない話”です。

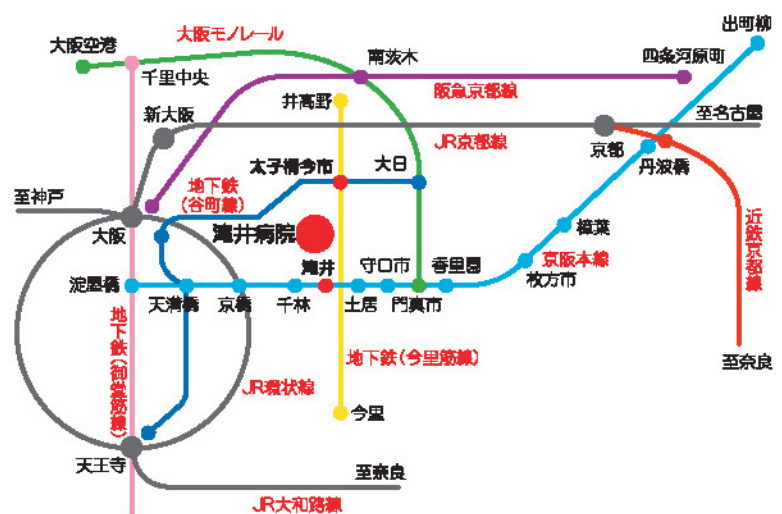
説明を終えた担当医は帰り際に付け加えてこういいました。

『紹介医には返事を書いておきました。先生には本当のことをはっきりと言わないと大変なことになりますよ!!』

アクセスマップ



- ・京阪電車「滝井駅」徒歩3分
- ・地下鉄谷町線・今里筋線「太子橋今市駅」(2番出口)徒歩6分



関西医科大学附属滝井病院

〒570-8507 大阪府守口市文園町10番15号
 TEL 06-6992-1001 (代)
 HP <http://www.kmu.ac.jp/takii>